

○ 調査問題

(3) ①～⑦の段落を内容のまとまりとして分けた場合、最もふさわしいものはどれですか。次の1～4の中から一つ選びましょう。

4	3	2	1
①	①	①	①
②	―	②	―
③	③	③	③
④	―	④	―
⑤	⑤	⑤	⑤
⑥	―	⑥	―
⑦	⑦	⑦	⑦

（長田弘）『読書からはじまる』による。  
おさだひろし

○ 調査問題の趣旨・内容

「段落のまとまりをとらえる力」が身に付いているかどうかをみる問題

【問題内容】 段落のまとまりの分け方として最も適切なものを選択する。

【作成の趣旨】 この問題は、段落の内容を意味のまとまりごとにとらえることができるかどうかをみる問題である。この問題のポイントは、①から⑦の段落を意味のまとまりとして大きく4つに分けることであり、段落の内容を的確に押さえ段落相互の関係をとらえる力が求められる。説明的な文章の解釈では、高学年においては文章の要旨をとらえるとともに、事実と筆者の感想や意見を読み分けることが大切である。そこで、中学年で学習してきた文章を段落ごとの内容に着目しながら段落をまとまりとして分ける力が定着しているかどうかを把握するためにこの問題を作成した。

○ 誤答分析

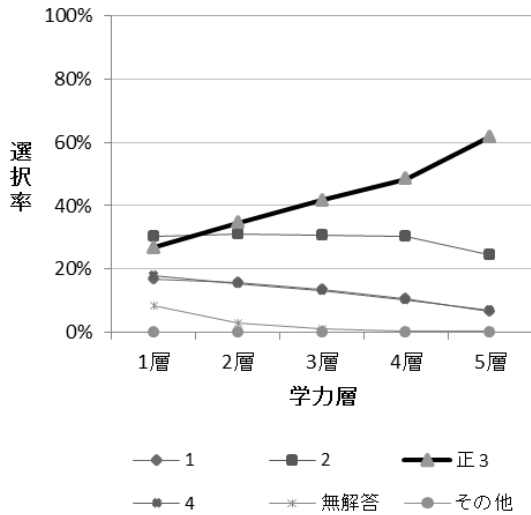
出題のねらい	解答類型	1	2	③正答	4	無解答	その他
段落のまとまりをとらえることができる		12.2%	28.9%	44.2%	12.3%	2.4%	0.0%

正答率は44.2%で、大問13のなかで最も低い。

誤答のなかで最も多かったのは、「①②③④⑤⑥⑦」の4つに段落を分けた解答類型2である。②の段落を①の段落とまとめてしまったことが誤答の要因の一つであるが、②③④の中心となる語（キーワード）である「日々」「日付」、また⑤と⑥の中心となる語「始まり」「おしまい（終わり）」に着目できずに段落のまとまりを誤ってしまったことが予想できる。さらに、誤答の要因としては、段落の中心となる語を「本」や「TV」ととらえて、⑤と⑥を切り離してしまったことも予想できる。いずれにしても、段落の中心となる語や文をもとに段落のまとまりをとらえる力が不十分であったことが考えられる。

解答類型1・4についても類型2と同様に、段落の中心となる語や文をとらえきれず、また、文章内容の把握も不十分であったことがうかがわれる。

## ○ G - P 分析



○全体の正答率は44%と大問13のなかで最も低い結果となった。正答のグラフからは3層～4層の中程度の児童でさえ5割を超すことができず、5層の児童の児童でも6割を超すのがやっとなである。1層～2層の低位の児童にいたっては、解答類型2と正答がほぼ同率にある。全体的に「段落をまとまりで分ける力」の定着が十分に図れていないことが読み取れる。

○解答類型2のグラフに着目すると、5層の誤答率が若干低くはなっているが、どの層においても同程度の割合(約3割)で存在している。このことから、2段落と3・4段落、5段落と6段落の内容の関連性を読み取れずに誤答した児童が全体的に多かったことがわかる。

## ○ 指導上の改善ポイント

### 中心となる語や文をもとに段落のまとまりをとらえる力を身に付ける指導

読みが苦手な児童も、段落構成をとらえて筆者の考えを読み取ることができるよう、ALを取り入れた授業を展開する。

【指導例】バラバラになった文章を段落の内容やつながりを考えながら元の文章に戻す活動を単元計画に取り入れた指導

- ・ゲーム性のある活動で、読みが苦手な児童も、ペアやグループでの協同の読みに支えられて学習意欲が高まり、段落のまとまりをとらえる力や文章を読み取る力の習得につながる。

単元名：(例) 文章バラバラ事件を解決して、筆者の主張を報告せよ！

教材名：A『笑うから楽しい』(光村) または『減らそう食べ物のゴミ』(教出)

B『時計の時間と心の時間』光村) または、『ぼくの世界、君の世界』(教出)

単元計画(8時間扱い)



第一次 (1時間)	○単元の学習の目的と方法を知る。 ・バラバラになった文章を元に戻してから筆者の主張を読み取り、それに対する自分の考えを発信することを伝える。 ・文章構成の型や、文末表現、接続語、中心となる語や文、事実と意見の見分け方などについて説明する。
第二次 (3時間)	○教材文『A』で「文章バラバラ事件」の解決方法を学ぶ。 ①並び替えた理由を明らかにしながら、 <b>個人</b> で「文章バラバラ事件」に取り組む。→ <b>ペア</b> で交流する。 ②4人 <b>グループ</b> で交流し、合意形成しながら「文章バラバラ事件」を解決して、筆者の主張をまとめる。 ③ <b>クラス</b> で発表し合い、筆者の主張に対する自分の考えを書く。
第三次 (4時間)	○バラバラ教材文『B』を解決し、筆者の主張に対する自分の考えを発表し合う。 ①並び替えた理由を明らかにしながら、 <b>個人</b> で「文章バラバラ事件」に取り組む。→ <b>ペア</b> で交流する。 ②4人 <b>グループ</b> で交流し、合意形成しながら「文章バラバラ事件」を解決して、筆者の主張をまとめる。 ③ <b>クラス</b> で発表し合い、筆者の主張に対する自分の考えを書く。 ④書いた文章を発表し合い、互いの良さを認め合う。→本単元で何を学んだか、振り返りを書いて発表し合う。

### ここがポイント！

- ・意見交流の際は、グループの組み合わせを工夫したり、「相手の意見を尊重する」姿勢を促したりして、児童の学習意欲を高められるようにする。
- ・児童の実態に応じて、文章の区切り方や教材文の選択を工夫する。